

(8 -) 一般機械工業 (金属工作機械)

17 / 16 18 / 17 伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向 (需要、生産・設備稼働、企業収益、財務)

(1) 需要

平成 17 年の受注額 (出典 : (社) 日本工作機械工業会統計) は 1 兆 3 , 6 3 2 億円、対前年比 10 . 3 % 増と 1990 年に次ぐ史上 2 番目の受注額。内需については、自動車や一般機械産業向けを中心に増加し、7 , 467 億円、対前年比 11 . 0 % 増と 3 年連続の増加となり、外需についても、アジア、北米、欧州向けが増加し、6 , 165 億円、対前年比 9 . 4 % 増と 2 年連続最高額を更新する増加となった。

(2) 生産・在庫

平成 17 年の生産額 (出典 : 経済産業省生産動態統計) については、受注の増加基調を受け、1 兆 1 , 110 億円と対前年比 26 . 4 % 増と 3 年連続の増加となった。

在庫 (出典 : 経済産業省生産動態統計) は、生産台数の増加に伴い増加となった (年末在庫の対前年比 23 . 4 % 増)。

(3) 企業収益

平成 17 年度は、受注が大幅に増加したため、多くの企業で増収となり、黒字決算となった。

(社) 日本工作機械工業会調査の「工作機械工業経営状況調査 - 2005 年度上期 - 」によると、調査対象 23 社の連結売上高は前年同期比 19 . 5 % 増となり、営業利益は 42 . 4 % 増、経常利益は 45 . 6 % 増、当期利益は 39 . 1 % 増となった。

2 . 設備投資動向 (17 年度見込み、18 年度計画)

(1) 平成 17 年度実績見込み

平成 17 年度実績見込みは、共通回答企業 18 社合計で 284 億円となった。これは 174 億円であった平成 16 年度実績に比べ 63 . 4 % 増である。

目的別では、生産能力増強 (37 . 6 %) 及び合理化・省力化投資 (23 . 2 %) のウェイトが高くなっている。

(2) 平成 18 年度計画

平成 18 年度計画は、共通回答企業 18 社合計で 313 億円と計画されている。これは 284 億円であった平成 17 年度実績見込みに比べ 10 . 3 % 増である。

目的別では、生産能力投資、研究開発投資、合理化・省力化投資が依然として大きなウェイトを占めているが、特に、更新・維持投資、研究開発投資が増加している。

3．長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

(1)長期資金運用動向

調査企業7社において、平成17年度は平成16年度に比べ、設備投資資金が対前年比76.8%増、短期資金への振替が対前年比72.1%増と大幅に増加した。

平成18年度計画は平成17年度に比べ、設備投資資金、投融資額、短期資金への振替ともに減少する見込み。

(2)長期資金調達動向

平成17年度は借入金が増加するとともに内部資金も増加した。

平成18年度計画は平成17年度に比べ、内部資金が増加する一方、借入金及び社債は減少する計画となっている。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

